

Q3：「とちぎの子どもたちへの教え」指導事例集をどのように活用したらよいか。

A： この指導事例集は、小中学校で道徳教育の充実を図るため、リーフレット「とちぎの子どもたちへの教え」（平成24年1月）に示した各学年段階の指導事項について、指導の参考となる具体的な事例を提示したものである。

その中から、ここでは指導事例集の内容と活用する際の留意事項、活用例を紹介する。

1 指導事例集の内容

指導事例集の前半部では、「とちぎの子どもたちへの教え」を含む「教え育てる道徳教育」についての理解を深められるように、「教え育てる道徳教育」について概念図を用いた説明、具体例を用いた「道徳的実践の指導」と「道徳的実践力の育成」の違い等の説明をしている。また、「道徳的視点に立って『教える』ときの留意点は何ですか。」等のQ&Aも設けている。

後半部では、子どもたちを指導する際の参考となるように、「とちぎの子どもたちへの教え」の一つ一つの指導事項について、授業の場面だけでなく授業以外の場面も含め、具体的な事例を示している。

以下は、低学年の「あいさつをする」という指導事項の、集会、朝の会・帰りの会等における指導事例、指導上の留意点及び「心のノート」との関連を示したものである。

場面2 集会、朝の会・帰りの会等

教室や校内であいさつができるようにすることと同時に、来校者や地域の方々にも、同じように気持ちのよいあいさつができるよう、個に応じて指導していく必要があります。

例えばこんな場面が見られたとき...

ある学校では、あいさつ運動に力を入れており、学校内のあいさつが来校者にも褒められるようになってきました。そんなとき、PTA活動で、朝の交通指導をしている保護者から「子どもたちにあいさつをしても、あいさつを返してくれない」という話がありました。

この間、学校の腕章を着けた交通指導担当の保護者の方から、登校のときに「あいさつをしても、あいさつを返してくれない子が多い」という話を聞きました。みなさんは、どうですか？



みんながしなかったの、しませんでした。それに、僕の知らない人だったし...

学校の外で元気にあいさつをするのは恥ずかしいので、しませんでした。





でも、学校の腕章をしている方は、この学校の保護者の方ですよ。地域で皆さんを見守ってくれている大人の方はたくさんいらっしゃいます。あいさつをしてくれたときには、ありがたい気持ちをこめて、あいさつができるといいですね。

あいさつをする人も、される人も気持ちよくなれるとよいですね。今度からは、保護者の方に気付いたら、みなさんの方から進んであいさつができるようになると、もっと素晴らしいですね。

【指導上の留意点】

- ・学校だけでなく、地域においてもあいさつができるようにすることが大切です。
- ★あいさつの指導が学校だけの指導に終わらないよう、例えば、学校だよりや学年だよりを通して家庭や地域にも積極的に働き掛け、理解と協力が得られるようにしましょう。そして地域全体に協力をお願いしていることを児童にも伝え、児童からも安心してあいさつができるようにしていきましょう。

「こころのノート」との関連

「うつくしい 心を そだてよう」(pp. 4-10) 「気持ちの いい 一日」(pp. 14-15)
「あいさつは 心の リボン」(pp. 36-37) 「ありがとうを さがそう」(pp. 48-49)

2 指導事例集を活用する際の留意点

- (1) 「とちぎの子どもたちへの教え」を指導する際には、一方的に教え込むのではなく、指導事例にも示されているように考えさせる時間をとるなど、子どもたちを納得させるような指導が重要である。
- (2) 指導事項に示した関連する「道徳の内容項目」(本事例では、2-(1)「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。」)を参考に、各指導事項を身に付けさせる指導と合わせて、内容項目につながる道徳性の育成を学校教育活動全体で行うよう配慮する。
- (3) 各校の子どもたちの実態や家庭・地域の実情に応じて、各指導事項を見直したり新たな指導事項を追加したりするなど、必要に応じて「とちぎの子どもたちへの教え」の自校化を図るようにする。

3 指導事例集の活用例

- (1) 事例に示した場面を意図的に設定したり、他の場面に応用したりすることで、「とちぎの子どもたちへの教え」の指導の機会を増やすとともに指導内容の充実を図る。
- (2) 系統的な指導ができるよう、「とちぎの子どもたちへの教え」を道徳教育の全体計画や年間指導計画に加え、各教科等の年間指導計画などの学校の諸計画に位置付けて活用する。
- (3) 「心のノート」や「子どもたちの規範意識を育てるためのルール・マナー教材集」等と関連付けた指導を行うことで、より効果的な指導を展開する。
- (4) 指導事例を参考に、学校生活の様々な場面で行われている指導を道徳教育の観点から見直すことで、学校教育全体を通じて行う道徳教育をより充実したものにす。